

三重大学教育学部附属小学校



河川におけるドローン映像データベースの構築と実践
—水害を防ぐしくみと地域の自然や文化の多様性を捉える—

ドローン映像から広がる流域研究

他校と連携して河川の違いを考察

2023年度の中谷財団成果発表会において日経サイエンス賞を受賞し、記念講演の質疑応答でも躊躇する中高生を尻目に積極的に質問する姿勢で多くの参加者から注目されたのが、三重大学教育学部附属小学校だ。

その研究はドローン映像を用いた河川の俯瞰的観察を出発点に、流域治水調査や防災シミュレーション、地域の自然・文化の探究へと広がる。調査対象も学校近隣の雲出川だけではなく、津市立豊津小学校と連携して津市北部を流れる田中川との違いを考察。両河川の河口部で砂洲の有無が異なることに関して、6年の佐々木郁乃さんは「河口にマリーナがある田中川では導流堤を築いて土砂が堆積しないようにしていることが、豊津小の人たちと話してわかりました」と話す。



クラスで雲出川水系上流の君ヶ野ダムを現地見学



成果発表会では日経サイエンス賞を受賞



●実施担当

前田昌志 教諭

●活動のモットー

クラス内でのスピーチをはじめ、人の話を聞く際には積極的に質問をするように伝えている。これにより話を聞く姿勢が変わる。



クラス内の発表でも質問が飛び交う



ドローン映像で常願寺川の治水について学ぶ

「わからないこと」自体を楽しむ

このほか、全国の特徴的な河川を映像教材としてドローン撮影している担当の前田昌志教諭は「子どもたちには『わからないこと』自体を楽しんでほしい」と願う。これに応えるように「疑問は理解が深まる始まりだと思う」と言う6年の安守和麻さんは、「川が氾濫する地域になぜ人が住んでいるのか疑問でしたが、地元の自治会長さんから自然堤防や農業用水の利便性の話を聞いて、氾濫する川と共生する知恵や川の恵みのことがわかりました」と話す。

その自治会長へのアポ取りは児童自らが自主的に行った。前田教諭は「最初は送信メールの文面をクラス全員で推敲するなど緊張していましたが、今では三重大学の先生などにもどんどん連絡しています」と笑う。続けて、「そんな経験をしながら、クラス全員が問題解決に喜びを感じる『探究するコミュニティ』になることが目標です」と理想を話してくれた。（プログラム助成2年目）



雲出川の無堤部。ドローン映像は教材としてyoutubeなどで一般公開されている

学校概要



文部科学省のいわゆる「ギフトド支援事業」の対象である三重大学の付属学校として、先進的な教育研究や地域の初等教育を担う。

設立: 1947年

生徒数: 583人

所在地: 三重県津市観音寺町359番地

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

